

# オーストラリアの職業高等教育機関を活用した

## 海外留学プログラム

—英語で学び、働く海外研修—

## Study Abroad Program Utilising Australian

## Vocational Institutions:

## Programs to Experience Studying and Working in English

オーストラリア大使館マーケティング事務所 市川 智子

ICHIKAWA Tomoko

(Australian Embassy, Tokyo)

キーワード：海外研修、英語研修、インターンシップ、グローバル人材、  
オーストラリア、海外留学プログラム

### はじめに

オーストラリアは、その安全性、質の高い教育機関、充実した英語教育プログラムを提供する英語圏の国として、長年日本の大学、短期大学また中学高校の留学および海外研修先として人気を集めてきた。JASSOが発表した、平成25年度中の日本国内の大学等と諸外国の大学等との学生交流の調査結果<sup>1</sup>では、オーストラリアへの日本人留学生の数はアメリカに次いで多く、4,443人であった。その多くの学生が協定先であるオーストラリアの大学の学部または付属英語学校に留学をしている。近年、日本人学生の海外研修は多様化しており、より高度な英語力の修得や就職時にアピールできる経験を得ることが期待されている。つまり、「英語を学ぶ」ことはもちろんのこと、さらに「英語で学ぶ」、「英語で働く」という要素を含めたプログラムが求められている。特に、専門技術を学びプロフェッショナル育成を目的とする専攻においては、一般的な英語力向上と異文化理解を主目的としたプログラムでは、物足りなさを感じざるを得ない。

そうした流れの中、オーストラリア大使館では、4月22日(水)にオーストラリアの職業高等教育機

関VET (Vocational Education and Training) を招き、英語研修に専門分野の実習やインターンシップを加えた留学・研修の形を紹介するフォーラムを開催する<sup>2</sup>。本稿では、オーストラリアの職業高等教育機関(VET)の概要と特長、また実際日本人学生向けに開発された4つの先進的なプログラム事例をまとめた。

## オーストラリアの職業高等教育機関(VET)とは

オーストラリアの職業高等教育機関 Vocational Education and Training (VET) は、日本の教育システムにおいて同等のものが無いため、その多様な実態についての理解は低いのが現状だ。VET はオーストラリアの大学と並ぶ高等教育機関と位置づけられており、キャリアに直結した実践的なスキルや知識を習得する教育機関として、各産業界と連携をとりながら世界市場のニーズに沿ったコースを提供している。州立と私立の2種類の機関があり、州立はオーストラリア全土に100校以上のキャンパスを持ち、幅広い専攻分野を提供する総合専門学校のTAFE (ティフ=Technical and Further Education) と呼ばれている。一方、私立校は観光業、ビジネス、デザイン、保育など、特定の分野を専門的に提供している学校が多い。資格は4カ月から取得できる Certificate レベルのものから、一年半から3年かけて取得する日本の準学士(Diploma, Advance Diploma)や学士号(Bachelor)相当の資格と幅広い。また、日本の専門学校や短大と異なり、全日制(フルタイム)とパートタイムいずれでも履修が可能なコースが多く、半数以上の学生が25歳以上の社会人である。日本からは毎年約3,250名が、グローバルな環境で専門分野のスキルアップと英語力向上を目指し、VETに留学をしている。

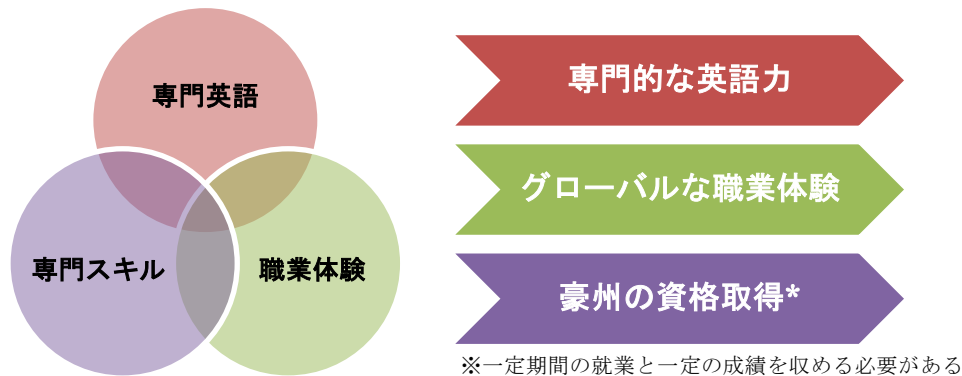
## オーストラリアの職業高等教育機関(VET)を活用した海外留学プログラム

オーストラリアの職業高等教育機関(VET)が日本の教育機関との協定のもと提供できる海外留学プログラムは、休暇期間を活用した数週間の短期研修と、1年間程の長期留学プログラムの大きく分けて2つのパターンがある。いずれの場合も、提携先のオーストラリアの教育機関は、日本側の研修ニーズを理解したうえで、研修時期、期間、研修生の英語力、人数を考慮しカスタマイズしたプログラムを提案できる。一般的な大学でのプログラムと比較して、VET ならではの留学プログラムの特長としては以下の5点があげられる。

1. キャンパス内に専門分野を実践的に学ぶための施設(レストラン、保育園、業務用キッチン等)が整備されており、より実践的な研修が可能
2. 専門課程の他、付属の英語学校が併設されている機関が多く、英語研修の提供も可能
3. 現地企業との連携を通して、英語力と専門スキルの要件を満たせば短期留学の学生にもインターンシップのアレンジが可能
4. 専門課程を履修するための英語要件がIELTS5.0 から5.5であり、大学の学士課程より低い<sup>3</sup>

5. VET で提供されている Certificate レベルの資格は 4 カ月から 1 年以内で取得でき、1 年未満の留学でもオーストラリアの専門資格を取得できる

図 1 : VET で実現できる海外研修要素と成果



### 事例紹介 1 : 名古屋短期大学のオーストラリア保育資格取得留学プログラム【長期】

日本の保育幼児教育分野は他の分野に比べてグローバル時代への対応が遅れていると言われている。しかし、日本社会がグローバル化に本当に対応していくためには、同分野においてグローバル人材を育成していくことが必須であるという考え方に基づいて、名古屋短期大学専攻科保育専攻（2年課程、大学評価・学位授与機構認定専攻科）では、短期大学や専門学校で日本の保育士・幼稚園教諭の資格を取得して専攻科に入学した学生を対象とした、オーストラリアの保育資格を取得するための留学プログラムを開発した。本プログラムは、15週間の語学研修によって所定のレベル(Upper Intermediate)に達した場合、7カ月の保育士養成コースに進学し、オーストラリアの保育資格(Certificate III in Early Childhood Education and Care)を取得するものである。日本で初となる名古屋短期大学独自の本プログラムは、2009年度より開始され、2014年度までに66名がこのプログラムで留学し、全員がオーストラリアの保育資格を取得している。単なる語学留学ではなく、英語で保育を学び資格を取得するという明確な目的をもった本プログラムに対する関心は着実に高まっており、2015年度は30名が留学予定である。

提携先のイマジン・エデュケーション・オーストラリアは、保育士養成コースに語学コースを併設した専門学校で、付属保育園も併設されている。2009年2月16日に両校の間で教育提携を締結して以来、活発な交流を行っており、双方の担当者が年に2~3回ずつ訪問し合い、事前指導、現地指導、プログラムの進行状況の確認、点検を行っている。このプログラムに参加してオーストラリアの保育資格を取得して専攻科を修了した学生の中には、オーストラリアで保育者として就職し活躍している人もおり、保育・幼児教育分野におけるグローバル化に対応した先進的なプログラムである。

## 保育園での実習の様子



### 事例紹介2：名古屋文化学園保育専門学校の短期オーストラリア保育実習プログラム【短期】

名古屋文化学園保育専門学校は、1995年、幼稚園教諭、保育士養成校の学生を対象として、クイーンズランド州における約2週間の短期保育実習プログラムをスタートした。2005年からは、上記の名古屋短期大学と本プログラムを共同開催しており、2014年現在、両校合せて延べ人数1,000名を超える学生がこのプログラムに参加している。本プログラムでは、オーストラリア、日本両国の文化的理解、英語圏の保育がどのようなものであるかを知るだけでなく、現地のチャイルドケアセンター（保育施設）の保育者や子どもたち、そしてその保護者との触れ合いを肌で感じることができる。可能な限り日本での保育実習、教育実習に準じた内容、すなわちひとクラス1名、一週間にわたりほぼ終日、現地の保育にどっぷり浸かるという内容であることが特徴である。また、保育現場での実習のほか、保育専門学校の授業見学や英語での保育模擬授業、英語レッスンも含まれている。日本の保育実習生は、オーストラリアでの保育の在り方、保育者の指導法、保育計画、家庭での子育て文化、親としての考え方、食生活などを学び、西洋圏のオーストラリアとアジア圏の日本とでは保育・教育行政、歴史、資格制度など多くの面において違いがあることを自ら体感し、言語学習目的だけでは得られない、幅の広い視野、異文化理解の力を体得できる。

参加者の多くは、初めて海外に行く、もしくは海外旅行の経験はあるけれども長期滞在は初めてという学生ばかりである。期待に胸をふくらませ、海外保育実習に参加することを決断したにもかかわらず、出発直前になると何とも言えない不安に襲われる学生も少なくない。しかしながら、そこで勇気を出し一歩踏み出すと、新しく素晴らしい体験が待っていたことを学生たちは確かに体感し、保育士としても、人間としても大きく成長して帰ってくる。

### 事例紹介3：香川調理製菓専門学校のオーストラリア短期留学プログラム【短期】

香川調理製菓専門学校では、2004年から、外資系企業への就職、外国人と共に働くといった調理現場の国際化に対応する人材育成のため、西オーストラリア州のPOLYTECHNIC WEST（旧SWAN TAFE）へ

の短期留学プログラムを始めた。対象は、調理・製菓・製パンのスペシャリスト養成コース（2年間の「テクニク・コース」）の2年目の学生で、毎年10名前後が参加する。2014年は派遣先を同州パース近郊のWEST COAST INSTITUTE（WCI）に変更したが、7月から8月にかけて4週間、11名が滞在し、勉強に、外国生活に良い経験を積んだ。帰国後、外国のホテルに就職した学生もあり、2015年も11名が参加予定である。WCIは国内外の学生に様々な職業訓練を行う州立総合専門学校で、即戦力を養うトレーニング機関として定評があり、調理分野はヨーロッパから移住した教員も多く、本場の西洋料理も学べる。学生の中には、調理師資格を取り、オーストラリアに永住するという明確な目的を持つ留学生も多く、緊張感がある。

現地ではホームステイを通し英語生活を体験する。自然に囲まれた広々とした環境、多民族国家の様々なアクセントのある英語、そして各ご家庭の文化背景を反映する食生活も体験する。プログラム最初の2週間は料理・製菓の実習で、ワニやカンガルーなどの食材を使うオーストラリアならではの料理も学び、製菓では現地の店のパティシエの指導を受ける。3週目は英語の授業に加えてチョコレート工場・ワイナリー・野生動物園を見学、4週目は現地レストランでの調理体験実習を行なう。2014年には市内の有名なCROWNホテル内の各種レストランでの研修があり、学生は全て英語でのコミュニケーションに苦勞しながらも海外での生きた調理実習を経験した。

プログラム修了後は、学生が一回り成長したことを実感する。本校で修得した技術が現地の学生やシェフから高い評価を受けて自信をつけ、英語環境の中で乗り切れたことが大きな理由である。学生からは「言葉の壁、文化の違いなど未経験の大変なことが沢山あったが、ホストファミリーや周囲の支えにより充実した留学となった。貴重な体験を将来に生かせるように、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに生かせるように、語学を勉強して国際的に活躍できるように」という前向きな声が寄せられた。同専門学校古川瑞雄校長も「本校卒業生が、学園建学の精神である“食は生命なり”のもとに国内・海外で栄養満点のおいしい料理やお菓子をご提供し、皆さまの日々の健康な生活に貢献して欲しい」と期待を寄せる。

### オーストラリアの食材を使った実習授業の様子



#### 事例紹介4：ホテルでのインターンシップを含めた留学プログラム【長期】

ビクトリア州メルボルンに位置する州立総合専門学校のホルムスグレンでは、1999年以來、日本全国のホテル、ブライダル、ツーリズム専門学校<sup>4</sup>より毎年30名から50名の学生を受け入れ、10カ月間の専門プログラムを提供している。旅行先として絶大な人気を集めているオーストラリアでは、ホスピタリティー分野の教育に力を入れており、教室での講義の他、有名ホテルやレストランでの実習の機会が豊富にある。本プログラムに参加する学生は日本で2年制のホテル、ブライダル、ツーリズム関連学科に在籍し、留学時にはすでに1年目の課程を修了している。2年目に、約1年間オーストラリアに留学し、帰国後在籍する日本の専門学校にて2年目の課程を履修し、計3年間で卒業する、いわゆる「サンドイッチ留学システム」を採用している。

10カ月の留学プログラムの最初の20週間は、専門学校付属の英語学校で集中英語プログラムを履修することが必修となっているため、プログラムへの参加に英語力の要件は設定していない。その後、専門課程履修に必要な英語力に達した場合は、Certificate 2 in Hospitality（ホスピタリティー分野の資格）のコースを3カ月間履修し、最後の1カ月間はメルボルン市内の一流ホテルやレストランでインターンシップを行なう。学生達は日本での1年間で培ったサービスの基礎をベースに、英語力とオーストラリアのホスピタリティーを身につけた上でインターンシップに臨むため、受け入れ側の評価も高い。留学の成果として、英語力がTOEICのスコアで200点から400点以上伸びるほか、海外でのホテル事情の理解、また様々な背景を持つお客様をもてなすグローバルなホスピタリティーが身につけている。

#### レストランでの実習授業の様子



#### おわりに

冒頭でもご案内したとおり、オーストラリアの職業高等教育機関を活用した研修プログラムの魅力をさらにお伝えすべく、4月22日(水)に日豪教育連携フォーラム「グローバルに活躍できるプロフェッショナル育成のために」を開催する。本フォーラムでは、オーストラリアから7つの職業高等教育

機関が来日し、先進的な留学・海外研修の事例をご紹介する。また、第二部ではオーストラリアの職業高等教育機関の担当者との個別相談の機会もあり、日本の教育機関の皆様には、情報収集や関係構築の場として是非活用してほしい。

---

<sup>1</sup> 平成 25 年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果

[http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/documents/short\\_term13.pdf](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/short_term13.pdf)

<sup>2</sup> 日豪教育連携フォーラム「グローバルに活躍できるプロフェッショナル育成のために」

<http://kbunsha.com/australia-forum/>

<sup>3</sup> 大学学士課程の英語要件は通常 IELTS6.0-6.5

<sup>4</sup> 本プログラムは現在、日本ホテルスクール（東京）、国際トラベル ホテル ブライダル専門学校（千葉）、経専北海道観光専門学校（札幌）、西鉄国際ビジネスカレッジ（福岡）で実施されている。